



有機農業の推進に向けた成果と課題



千葉県木更津市農林振興課



これまでの主な取組

2016年(H28)

- 「木更津市人と自然が調和した持続可能なまちづくりの推進に関する条例」制定。
- 木更津産のお米や加工品の消費拡大に向けて、「木更津産米を食べよう条例」制定。

2017年(H29)

- 第1期「オーガニックなまちづくり アクションプラン」策定。
- リーディングプロジェクトの一つである「地元野菜を食べて循環・学校給食プロジェクト」に
取り組み、食育の推進・有機米の生産促進に向けた取組を支援。

2019年(R1)

- 専門家の技術指導のもと、5名の生産者の協力（約1.8ヘクタール）を得て、
有機米の栽培スタート。
- 生産された有機米を学校給食に提供（市内全公立小中学校の学校給食3日分）。

未来に向けて

農業振興

環境保全

まちのブランディング

SDGsへの
貢献

有機米給食に取り組むこととなった経緯

～首長の強い意向・トップマネジメント(2018年(平成30年)10指示)～

- 本市において、有機農業の推進、及び有機米の生産を農業関係機関との連携のもと促進していきたい。
- 有機米の生産促進については、生産された有機米を農協を通じて学校給食に提供することを目的とし、現在、供給している「コシヒカリ」との差額については、市が負担（財政措置）する。
- また、この取組を現在、策定中の「第2次基本計画」（※市の上位計画）に位置づけていきたい。
- 加えて、有機農業を志す新規就農者（若者）への支援も検討したい。



渡辺芳邦 木更津市長

- 本指示を受け、主担当課である農林水産課において、生産から出口（学校給食提供）までの一連の取組を先進市である同じ県内の「いすみ市」を参考に、検討に着手。
- まず第一として、生産者への栽培指導をいすみ市での栽培指導実績を有するNPO法人民間稲作研究所の稲葉先生に面会して依頼。

「地域の食と農を考えるフォーラム」の開催

～有機米生産への協力に向けた「きっかけ」(2019.2開催)～

- 2019（平成31）年2月、NPO法人民間稲作研究所の稲葉先生を講師にお招きし、地域の農業者向けの「地域の食と農を考えるフォーラム」を開催（出席者34名）。
- 稲葉先生から「小力・低コストの循環型有機農業（稲作）のすすめ」をテーマに講演頂き、本フォーラムに参加頂いた農業者等にアンケートを実施（学校給食提供に向けた有機米の生産に興味があると回答頂いた生産者に直接、市（担当者）から生産の協力を依頼。）



【アンケート結果（抜粋）】

問 今回のフォーラムを通じて、今後、農薬不使用米や有機米の生産に取り組んでみたいと思いますか。

①思う	10名
②条件次第	2名
③どちらとも言えない	0名
④思わない	1名

フォーラム開催後の翌月には「ポイント研修会」開催

～機を逸せず専門家の栽培指導のもとスタート!(2019.3播種)～

- 前述した「地域の食と農を考えるフォーラム」(2019.2.23)開催後、アンケートに回答頂いた生産者等のうち、5名の生産者から協力を内諾。
- フォーラム開催後、1月経過していない、2019.3.16には、NPO法人民間稲作研究所の稲葉先生の「ポイント研修会」を開催。
- 一年一作の米作りを踏まえて、生産から出口(学校給食提供)までの調整や準備が十分に整っていないまま、稲葉先生の栽培指導のもと、栽培に必要な資機材(ポット植え田植機、播種機、苗箱等)をお借りしつつ、栽培をスタート。(JA木更津市等の関係機関の協力も重要な要素)

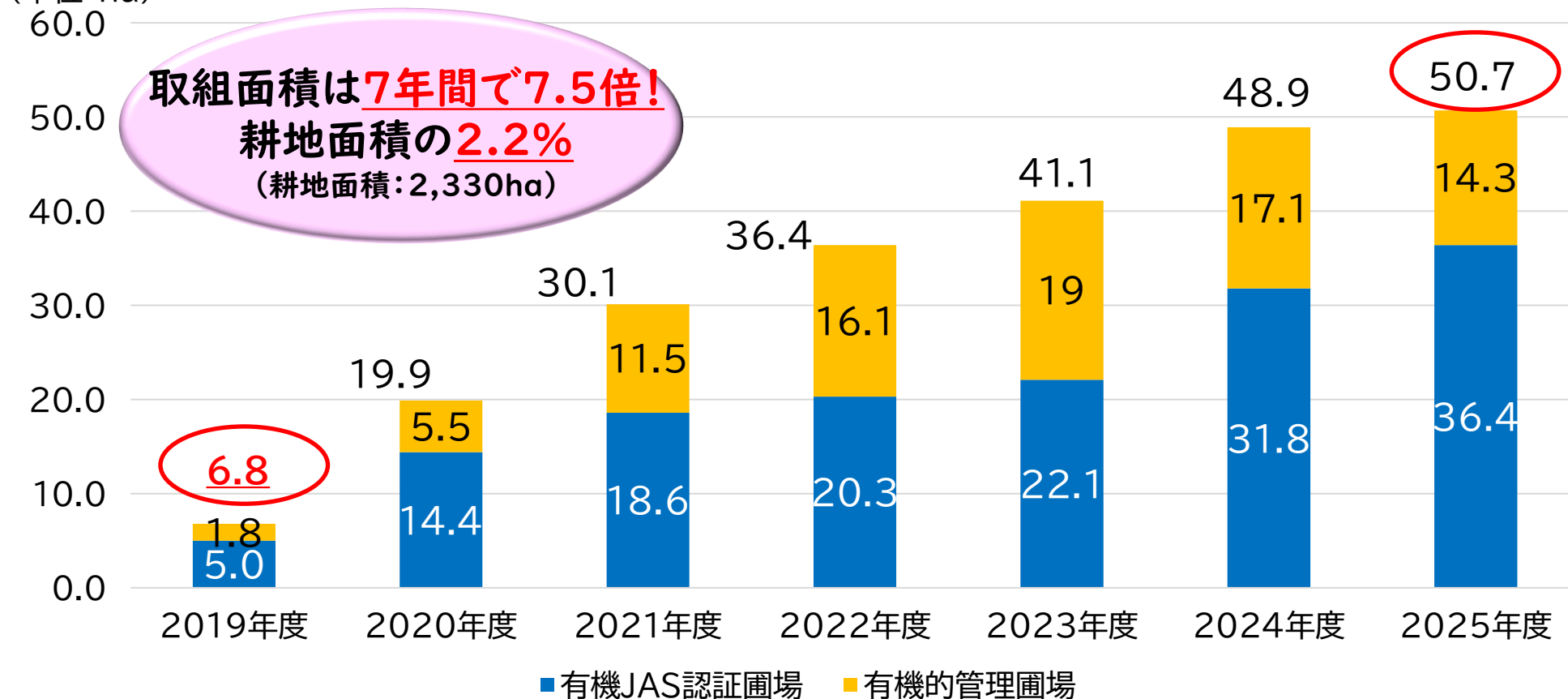


市内公立小・中学校の学校給食に有機米を提供

- 市では、農業の成長分野として期待される有機農業の推進に向けて、生産者、JA木更津市、関係団体との協力のもと、2019(令和元)年度より有機米の生産に着手。
- 生産した有機米は、市内公立小・中学校(全30校)の学校給食に提供。地産地消や食育の推進に大きく寄与するとともに、農業者の生産意欲や所得向上にも寄与。

【有機農業取組面積の推移】

(単位:ha)



有機米の生産促進に向けたロードマップ

- 木更津市では、2024(令和6)年度より週4回、年間約153日間の米飯給食。市内公立小・中学校 全30校に有機米を提供するにあたっては、**一日あたり最大約900kgが必要**。
- 学校給食に全量、有機米を提供するには、「年間約153日間の米飯給食 × 一日あたり最大900kg = **137,700kg (約138トン)**」が必要 (栽培面積は41ヘクタールが必要)。

～市内公立小・中学校(全30校)への有機米提供実績及び計画～

年 度	2019 (令和元)	2020 (令和2)	2021 (令和3)	2022 (令和4)	2023 (令和5)	2024 (令和6)	2025 (令和7)	2026 (令和8)	2027 (令和9)
栽培面積	1.8ha	5.5ha	15.4ha	20.0ha	26.0ha	33.0ha	34.0ha	35.0ha	40.0ha
玄米出荷量 (精米後)	3.0t (2.7t)	17.3t (14.4t)	51.3t (46.3t)	71.0t (64.1t)	88.0t (76.6t)	87.9t (76.5t)	99.6t (86.7t)	136.5t (118.7t)	156t (135.6t)
達成率(※)	2.2%	11.9%	38.8%	53.0%	61.9%	62.7%	56.2%	62.7%	85.6%
提供日数	3日	16日	52日	71日	83日	96日	86日	(96日 分)	(131日 分)
生産者数	5人	8人	13人	14人	16人	21人	21人	22人	26人

※「達成率」は、(有機米提供日数 ÷ 年間米飯給食日数)×100 2023(令和5)年度までは週3.5回が米飯給食、2024(令和6)年度から週4回に米飯給食を増加
 ※令和6年度は一日の使用量が830kg

～2027(令和9)年産での全量達成を目指す～

これまでの主な有機農業関連支援

【令和元年度】

①県事業「環境にやさしい農業」推進事業の活用

- ・田植機購入及び播種機購入



【令和2年度】

- ①有機米の栽培技術の確立に向けた専門家の指導委託
- ②有機JAS認証取得補助を開始



【令和3年度】

- ①県事業「環境にやさしい農業」推進事業の活用
- ・2台目田植機購入及び水位計購入



これまでの主な有機農業関連支援

みどりの食料システム戦略緊急対策交付金の活用

2022年度(令和4年度)から2024年度(令和6年度)「有機農業実施計画の実現に向けた取組の実施」

【令和4年度】

①みどりの食料システム戦略緊急対策交付金の活用

- ・有機レンコンを昆布を掛け合わせた
「れんこん子持ち昆布」を開発し、市内道の駅で販売
- ・有機大豆、有機サツマイモの実証栽培
- ・有機米収量向上の実証(土壌診断キット購入)
- ・木更津東高校と有機農場との
連携による新商品開発
- ・学校給食自校炊飯実証
- ・みりんの製造etc



【令和5年度】

- ①「環境にやさしい農業」推進事業の活用(県事業)
 - ・乗用の水田除草機(ウィードマンの購入)
- ②みどりの食料システム戦略緊急対策交付金の活用
 - ・真空パックキューブ機械の購入
 - ・規格外米を米粉にして活用したバームクーヘン
「おこめのぼうむ」を商品開発し、市内道の駅で販売
 - ・有機的ほ場の拡大に向けた取組
(フォーラム開催・マニュアル作成等)
 - ・学校給食自校炊飯実証
 - ・有機的管理ほ場で生産された米の活用
(真空パックキューブ機械)



これまでの主な有機農業関連支援

【令和6年度】

- ①みどりの食料システム戦略緊急対策交付金の活用
- ・土壌診断及び結果に基づいた研修会の開催
 - ・有機ブルーベリーを活用したフルーツソース、
「ブルーベリーソース」を商品開発し、市内道の駅で販売



みどりの食料システム戦略緊急対策交付金の活用

2025年度(令和7年度)から2026年度(令和8年度)「飛躍的な拡大産地の創出」

【令和7年度】

- ①みどりの食料システム戦略緊急対策交付金の活用
- ・有機水稻先進地視察・及び講習会の開催
 - ・有機にんじんを活用したポタージュスープを製作



～オーガニックビレッジ宣言～

次世代の為に、有機農業を推進し「オーガニックシティ」を
確立する事を宣言！

千葉県木更津市



オーガニックビレッジ宣言

木更津市では、令和元年度から「学校給食提供に向けた有機米プロジェクト」を開始しました。

学校給食米100%オーガニック化を基軸とした有機農業を推進するため、「みどりの食料システム戦略推進交付金」を活用し、生産・加工・流通、消費の各段階における様々な取組を行っております。

今後、農業をはじめとした人との有機的なつながりや自然環境を大切に、持続可能なまちとして次世代に継承していきます。

木更津市は、有機農業を推進し、「オーガニックシティ」の確立を目指すことをここに宣言します。

令和5年3月23日

木更津市長

木更津市長 署名

〇経緯

- ・首長の意向、トップマネジメント
- ・令和元年度からの有機米の取組

〇メリット・デメリット

- ・県内初のオーガニックビレッジ宣言
- ・みどり交付金の活用により、有機農業の推進を加速化
- ・デメリットはなし

～みどり戦略 特定区域の設定～

環境負荷低減事業活動の継続・拡大に向け市全域を区域設定

○活動類型

有機農業の生産活動

○活動内容

- ・有機JAS認証取得支援など、新規参入しやすい環境の整備
- ・有機農産物を活用した商品開発、PR
- ・「きさらづ学校給食米®」、有機農産物を通した食育により、地産地消、環境にやさしい農業への理解醸成を図る
- ・「きさらづ学校給食米®」の域外使用



～みどり戦略 特定区域の設定～

○経緯

- ・令和7年度からみどり交付金のメニュー変更
(有機農業実施計画の実現に向けた取組の実践
→飛躍的な拡大産地の創出)

○メリット

- ・国庫補助金の優遇(みどり交付金のポイント加算等)



○生産拡大・販路確保における課題と対応策

- ・課題①収量の向上

対応策⇒土壌診断・施肥設計を積極的に活用し、ほ場毎に適切な施肥を実施
外部講師による講習会開催

- ・課題②市外販路を拡大すること

対応策⇒市外で行われるイベントへの参加

○持続性を確保していく上での課題と対応策

- ・課題①消費者の理解促進

対応策⇒商品開発を通じたPRの継続、出前講座の継続実施

- ・課題②生産者支援の充実

対応策⇒(一社)木更津市農業支援センターとの連携強化

今後の展開「きさらづ地域循環共生圏」の創造に向けた取組

域内外様々な企業・団体との協働・共創を通じて

「きさらづ地域循環共生圏」の創造

里山の再生

【里山再生部会】
部会長：資産管理部長
事務局：財産活用課

資源循環の促進

【資源循環部会】
部会長：環境部長
事務局：資源循環推進課

食・有機農業

【食・有機農業部会】
部会長：経済部長
事務局：農林水産課

再生可能エネルギー

【再生可能エネルギー部会】
部会長：環境部長
事務局：環境政策課

里海の活用

【里海活用部会】
部会長：環境部長
事務局：環境政策課

1 ハンノキ湿原周辺地域の生態系の再生・活用

2 森林整備の促進

3 下水汚泥の堆肥化

4 衣類の新たな循環サイクルの促進

5 焼却処理中の有機性廃棄物の資源化

6 アルミ廃棄物の活用

7 循環経済への移行を推進する取組

8 有機農業の推進

9 「きさらづ学校給食米」®の活用

10 有機農産物を活用した商品の開発

11 脱炭素地域づくりに向けた面的整備

12 再生可能エネルギーの普及

13 E Vの普及促進に向けた環境整備

14 盤洲干潟エリアの保全・活用

15 漁場環境の改善

16 食害対策としてのクロダイの資源化

17 オーガニックツーリズムの組成（観光振興課）

18 カーボン・クレジット（オーガニックシティ推進課）

①ビジョン、計画策定
②収入源対策 等

①間伐材・竹の資源化（堆肥化等）
②木材利用の促進 等

①事業化の推進、②堆肥の活用 等

①回収及び処理スキーム作り 等

①剪定枝の資源化
②学校給食残渣の資源化（コンポスト等）

①資源回収のスキーム作り
②精製後の水素の活用 等

①堆肥・肥料研究会
②廃棄物処理の「見える化」等

①農業支援センターの開設準備
②有機大豆・有機小麦等の栽培促進

③有機農業栽培技術の確立・伝承 等
①公立保育園における給食活用

②規格外米の米粉等の新商品開発 等
①味噌・醤油等の地産化の推進 等

①脱炭素先行地域づくり事業の取組 等

①下水道施設へのP P Aによる施設整備
②公共施設への整備促進

③グリーンファイナンスの活用検討 等
①E V充電環境の整備促進 等

①ゾーニングの検討
②千葉県環境保全地域の指定 等

①藻場の再生（アマモ、コアマモ）等
②水産資源の新たな価値創出 等

①食品活用、堆肥化 等

①SDGs推進センターとの連携 等
②オーガニックツーリズムの組成 等

①カーボン・クレジットの検討

横断的

取組8:有機農業の推進(令和6年度)

■ 大豆播種作業の様子



■ 播種6日後



■ 中耕除草作業の様子(播種37日後)



■ 大豆収穫作業の様子



取組9:「きさらづ学校給食米®」の活用

1. 取 組

【規格外米の活用】

- 規格外米の出荷・保管方法、検査方法等を関係事業者と協議を行い活用方法を検討。
- 令和6年産米の規格外米においては生産者の協力を得て、1. 8mmのふるいをかけたお米を1. 7mmのふるいを再度かけた中米の活用に着手した。

2. 規格外米の活用

- 市内事業者において、「きさらづ学校給食米®」の中米を活用して日本酒の造り
- 規格外米を活用して、プロテインバーの制作に着手





きさらぎ学校給食米

ご清聴ありがとうございました。

 **ORGANIC CITY KISARAZU**
未来につながるまち